

【GFベンレート水和剤】2017年1月11日作成

ベンレートは住友化学(株)の登録商標

実際に商品を使用する際は、必ず商品に書いてある説明をよく読んで、記載内容に従ってお使いください。

←この部分が2017年1月11日付けで変更になりました。

殺菌剤

ばらの病気に

GFベンレート®水和剤

有効成分：ペノミル[メチルー1-(ブチルカルバモイル)-2-ベンゾイミダゾールカーバメート]50.0%

農林水産省登録：第23180号 性状：類白色水和性粉末 45 μ m以下

有効年限：4年 容量：0.5g \times 10袋、2g \times 6袋

(ベンレートは登録商標)

特長

ばらの黒星病、うどんこ病に優れた効果があります。浸透移行作用により病原菌の侵入を防ぐ予防効果と、侵入した病原菌を退治する治療効果を兼ね備え、病原菌の細胞分裂を阻害して防除します。特に黒星病には早春の萌芽前から散布することで防除効果が高まります。

効果・薬害等の注意

- ①きゅうり、トマトに対して灌注処理する場合は、誤って高濃度で処理すると退色や生育抑制などの薬害を生ずることがありますので、所定濃度を守ってください。
- ②たまねぎ、いちごに対して苗根部浸漬処理する場合は、誤って高濃度で処理すると、いちごでは活着不良、たまねぎでは初期生育遅延等の薬害のおそれがありますので使用方法を厳守してください。
- ③なすの半身萎ちょう病に対して灌注処理する場合、定植前及び定植時処理では葉の黄化・生育抑制等の薬害を生ずるおそれがありますので定植後に処理してください。
- ④りんごのモニリア病に使用する場合、多発条件下では効果が劣ることがありますので、発病初期に時期を失ないように散布してください。
- ⑤いちごの萎黄病防除に使用する場合、特に多発地では植付前の土壌くん蒸と本剤処理とを組み合わせるとより有効です。
- ⑥なしの枝枯病、胴枯病に使用する場合は、マシン油乳剤で希釈し、病斑部及びその周辺に1~2回塗布してください。尚、病斑部を削り取った後に塗布する場合は木質部が見えない程度に表皮を薄く削ってください。
- ⑦本剤及び同系統の薬剤の連続使用によって薬剤耐性菌が出現し、効果の劣った例がありますので過度の連用はさけ、なるべく作用性の異なる薬剤を組み合わせで使用してください。
- ⑧本剤はエトフェプロックス乳剤またはダイアジノン乳剤と混用した場合、凝固物を生成するため混用を避けてください。
- ⑨こんにゃくの乾腐病防除に使用する場合は、種芋の芽基部を上に向けて並べ、散布液が芽基部に十分かかるように1 m^2 当り100mL散布してください。
- ⑩麦類の雪腐病防除に使用する場合、散布は根雪近くに行ってください。
- ⑪桑の胴枯病に使用する場合は散布適期は9月上・中旬です。
- ⑫適用作物群に属する作物またはその新品種に本剤を始めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、普及指導センター、病害虫防除所または販売店等と相談することが望ましいです。

安全使用上の注意 **マスク着用** **手袋着用**

- ①使用量に合わせ薬液を調製し、使いきってください。
- ②本剤は眼に対して弱い刺激性がありますので眼に入らないように注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗してください。
- ③本剤は皮ふに対して弱い刺激性がありますので皮ふに付着しないように注意してください。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落としてください。
- ④かぶれやすい体質の人は取扱に十分注意してください。
- ⑤使用の際は、農業用マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするともに衣服を交換してください。
- ⑥作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
- ⑦本剤で処理した種子等は食料や動物飼料として用いないでください。
- ⑧常温煙霧中はハウス内へ入らないでください。また常温煙霧終了後はハウス内を開放し、十分換気した後に入室してください。
- ⑨街路、公園等で使用する場合は、使用中及び使用後(少なくとも使用当日)に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払ってください。

魚毒性等：水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼす恐れがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。散布器具及び容器の洗浄水は河川等に流さないでください。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

適用病害と使用方法※印は収穫物への残留回避のため、本剤及びベノミルを含む農薬の総使用回数の制限を示します。

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数※	使用方法	ベノミルを含む農薬の総使用回数※
樹木類	ごま色斑点病、炭そ病、輪紋葉枯病	2000 倍	200～700L/10a	発病初期	—	—	—
いぬつげ	枝枯病	—	—	—	—	—	—
ばら	うどんこ病 黒星病	2000～3000 倍	—	—	—	—	—
きく	白さび病 黒斑病 褐斑病	1000 倍 2000～3000 倍	100～300L/10a	—	6 回以内	散布	6 回以内
りんどう	花腐菌核病	3000 倍	100～300L/10a	—	—	—	—
パンジー	根腐病	2000 倍	セルレイ(60×30cm) 1 冊当り 500mL	育苗期	2 回以内	灌注	2 回以内
ゼラニウム	黒根病	—	—	—	—	—	—
チューリップ	球根腐敗病	100～500 倍 球根重量の 0.1～0.2% 20 倍	—	植付前又は貯蔵前 植付前	2 回以内	15～30 分間球根浸漬 球根粉衣 瞬間浸漬	2 回以内
シクラメン	萎ちょう病	500～1000 倍	50～100mL/鉢	—	3 回以内	灌注	3 回以内
しゃくやく ぼたん	根黒斑病	20 倍 500 倍	—	植付前	2 回以内	10 分間苗基部浸漬 16 時間苗基部浸漬	2 回以内
野菜類、 豆類(種実)、 とうもろこし	フザリウム菌による病害	乾燥種子重量の 0.16%	—	は種前	1 回	種子処理機による種子粉衣	1 回
うり類(漬物用)	炭そ病	1000 倍	150～300mL/株	定植前～収穫 45 日前まで	2 回以内	灌注	3 回以内(種子粉衣は 1 回以内、は種後は 2 回以内)
きゅうり	菌核病、灰色かび病、炭そ病、黒星病、つる枯病	2000～3000 倍	100～300L/10a	収穫前日まで	3 回以内	散布	4 回以内(種子への処理は 1 回以内、は種後は 3 回以内)
	つる割病	1000 倍	150～300mL/株	定植前～定植 1 か月後	—	灌注	—
トマト、ミニトマト	萎ちょう病	1000 倍	150～300mL/株	定植前～定植 1 か月後	2 回以内	—	6 回以内(種子への処理は 1 回以内、灌注は 2 回以内、散布は 3 回以内)
	菌核病	2000 倍	—	—	—	—	—
	葉かび病、灰色かび病	2000～3000 倍	100～300L/10a	収穫前日まで	3 回以内	—	—
なす	黒枯病、灰色かび病	2000～3000 倍	100～300L/10a	収穫前日まで	—	散布	—
	菌核病、褐紋病	2000 倍	—	—	3 回以内	—	4 回以内(種子粉衣は 1 回以内、は種後は 3 回以内)
	半身萎ちょう病	500 倍 1000 倍	200～30mL/株 400～600mL/株	定植後～収穫 14 日前まで	—	土壌灌注	—
甘長とうがらし	炭そ病	2000 倍	—	—	—	—	—
レタス	菌核病、灰色かび病、すそ枯病	—	100～300L/10a	収穫 14 日前まで	4 回以内	—	5 回以内(種子粉衣は 1 回以内、は種後は 4 回以内)
すいか	つる枯病、菌核病、炭そ病	2000～3000 倍	—	—	5 回以内	—	6 回以内(種子粉衣は 1 回以内、は種後は 5 回以内)
メロン	菌核病	—	100～300L/10a	収穫前日まで	3 回以内	散布	4 回以内(種子粉衣は 1 回以内、は種後は 3 回以内)
はくさい	白斑病、菌核病	2000～3000 倍	—	—	2 回以内	—	3 回以内(種子粉衣は 1 回以内、は種後は 2 回以内)
キャベツ	菌核病、根朽病	—	100～300L/10a	収穫 7 日前まで	6 回以内	—	7 回以内(種子粉衣は 1 回以内、は種後は 6 回以内)
アスパラガス	茎枯病、株腐病	2000 倍	—	—	—	—	5 回以内(種子粉衣は 1 回以内、は種後は 4 回以内)
ほうれんそう	萎ちょう病	2000 倍	3L/m ²	収穫 21 日前まで	2 回以内	灌注	3 回以内(種子粉衣は 1 回以内、は種後は 2 回以内)
パセリ	立枯病	1000 倍	3L/m ²	収穫 45 日前まで	2 回以内	—	—
みずな	—	—	—	—	—	—	—
チンゲンサイ	—	—	—	—	—	—	—
非結球あぶらな科葉菜類(みずな、チンゲンサイを除く)	炭そ病、白斑病	4000 倍	100～300L/10a	収穫 14 日前まで 収穫 7 日前まで 収穫 21 日前まで	1 回	散布	2 回以内(種子粉衣は 1 回以内、散布は 1 回以内)
いちご	炭そ病	500 倍	— 100ml/株	仮植前 本圃定植後 但し収穫 30 日前まで	1 回	10～30 分間苗根部浸漬 灌注	4 回以内(種子粉衣は 1 回以内、は種後は 3 回以内(苗根部浸漬は 1 回以内、本圃定植後は 1 回以内))
	萎黄病	—	50～100mL/株	育苗期	3 回以内	—	—
	—	—	—	—	—	1～3 時間苗根部浸漬	—
	—	—	100ml/株	本圃定植後 但し収穫 30 日前まで	1 回	灌注	—
しょうが	いもち病	1000 倍	100～300L/10a	収穫 21 日前まで	2 回以内	散布	2 回以内
ばれいしょ	黒あざ病	種いも重の 0.3～0.4%	—	植付前	1 回	種いも粉衣	1 回
かんしょ	つる割病	500～1000 倍	20～40ml/株	挿苗時	—	株元灌注	—
	つる割病、黒斑病	500～1000 倍	—	—	1 回	20～30 分間苗基部浸漬	1 回
	黒斑病	種いも重の 0.4%	—	植付前	—	—	—
さいとも(葉柄)	乾腐病	種いも重の 0.5%	—	催芽前	1 回	種いも粉衣	1 回

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数※	使用方法	ペニシルを含む農薬の総使用回数※	
たまねぎ	乾腐病	50 倍	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(30×60 cm、使用土壌約5L)当り500ml～1L	定植前	1 回	灌注	8 回以内(種子粉衣は 1 回以内、育苗培土混和、灌注または苗根部浸漬は合計 1 回以内、散布は 6 回以内)	
	乾腐病	100 倍	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(30×60 cm、使用土壌約5L)当り500ml	定植前	1 回	灌注		
		1g/1kg 培土	—	—	は種前	1 回		育苗培土混和
	灰色腐敗病	2000～3000 倍	—	—	移植直前	—		3 分間苗根部浸漬
	灰色かび病	2000 倍	100～300L/10a	100～300L/10a	収穫前日まで	6 回以内		散布
らっきょう	乾腐病	500 倍	—	—	—	—	—	
ねぎ	萎ちょう病	100～200 倍	—	—	定植直前	合計 1 回	5 分間苗根部浸漬	3 回以内(種子粉衣は 1 回以内、苗根部浸漬及び灌注は合計 1 回以内、散布は 1 回以内)
		500 倍	—	—			30 分間苗根部浸漬	
	100～200 倍	—	—	—	5 分間苗根部浸漬			
	500 倍	—	—	—	30 分間苗根部浸漬			
小菌核腐敗病	1000～2000 倍	100～300L/10a	100～300L/10a	収穫 30 日前まで	1 回	散布		
	500 倍	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(30×60cm、使用土壌約5L)当り500mL	—	定植前	合計 1 回	灌注		
わけぎ	萎ちょう病	500 倍	—	—	1 回	30 分間種球浸漬	1 回	
みょうが(花穂)	いもち病	2000 倍	100～300L/10a	収穫 3 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内	
みょうが(茎葉)				みょうが(花穂)の収穫 3 日前まで 但し、花穂を収穫しない場合にあっては開花期終了まで				
しそ(花穂)	菌核病	2000 倍	100～300L/10a	100～300L/10a	収穫 21 日前まで	2 回以内	散布	3 回以内(種子粉衣は 1 回以内、は種後は 2 回以内)
びたヤ	炭腐症	—	200～700L/10a	200～700L/10a	収穫 14 日前まで	—	—	2 回以内
せんきゅう	黒色根腐病	160 倍	—	—	1 回	30 分間種球浸漬	1 回	
みつば	菌核病	種子重量の 0.5%	—	—	1 回	種子粉衣	1 回	
なたね	菌核病	500 倍	—	—	1 回	24 時間種子浸漬	1 回	
								1000～2000 倍
ふき	葉枯病	—	—	—	—	—	—	2 回以内
つるむらさき	紫斑病	2000 倍	100～300L/10a	収穫 7 日前まで	2 回以内	散布	3 回以内(種子粉衣は 1 回以内、は種後は 2 回以内)	
				収穫 14 日前まで				
えだまめ	菌核病、紫斑病	2000 倍	100～300L/10a	100～300L/10a	収穫 30 日前まで	3 回以内	散布	6 回以内(種子粉衣は 1 回以内、灌注は 2 回以内、散布は 3 回以内)
	立枯病	1000 倍	3L/m ²	3L/m ²	発芽 14 日後まで	2 回以内	灌注	
さやいんげん	菌核病	2000 倍	100～300L/10a	100～300L/10a	収穫開始 14 日前まで	3 回以内	散布	
	立枯病	1000 倍	3L/m ²	3L/m ²	発芽 14 日後まで	2 回以内	灌注	
さやえんどう	菌核病	2000 倍	100～300L/10a	100～300L/10a	収穫前日まで	3 回以内	散布	
	立枯病	1000 倍	3L/m ²	3L/m ²	発芽 14 日後まで	2 回以内	灌注	
豆類(未成熟、ただし、えだまめ、さやいんげん、さやえんどうを除く)	菌核病	2000 倍	100～300L/10a	100～300L/10a	収穫 30 日前まで	3 回以内	散布	
	立枯病	1000 倍	3L/m ²	3L/m ²	発芽 14 日後まで	2 回以内	灌注	
いんげんまめ	菌核病	1000～2000 倍	—	—	—	—	—	
	角斑病	1000～1500 倍	100～300L/10a	100～300L/10a	収穫 7 日前まで	4 回以内	灌注	
えんどうまめ	褐紋病	1000～2000 倍	100～300L/10a	100～300L/10a	収穫 14 日前まで	4 回以内	散布	
だいず	菌核病、紫斑病	1000～2000 倍	100～300L/10a	100～300L/10a	収穫前日まで	—	—	
	黒根腐病	乾燥種子重量の 0.5%	—	—	は種前	1 回	種子粉衣	5 回以内(種子粉衣は 1 回以内、は種後は 4 回以内)
らっかせい	そうか病、茎腐病	2000 倍	—	—	—	—	—	
	褐斑病、黒渋病	2000～3000 倍	100～300L/10a	100～300L/10a	収穫 7 日前まで	4 回以内	散布	5 回以内(種子粉衣は 1 回以内、は種後は 4 回以内)
豆類(種実、ただし、だいず、いんげんまめ、らっかせいを除く)	菌核病	1000～2000 倍	—	—	—	—	—	
うど	菌核病	500 倍	—	—	1 回	30 分間種球浸漬	1 回	
たらんき	芽枯症	1000 倍	—	—	1 回	駒木瞬間浸漬	1 回	
セネガ	黒根病	1000 倍	3L/m ²	3L/m ²	3 回以内	1 m ² 当り 3L 灌注	3 回以内	
かのこそう	半身萎ちょう病	160 倍	—	—	1 回	30 分間苗浸漬	1 回	

作物名	適応病害名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数※	使用方法	ペ/ミルを含む農業の総使用回数※		
しゃくやく(薬用)	灰色かび病	1000 倍	100～300L/10a	収穫 14 日前まで	8 回以内	散布	8 回以内		
うめ	黒星病	3000 倍	200～700L/10a	収穫 7 日前まで	1 回		1 回		
あんず	すす斑病	2000～3000 倍	200～700L/10a	収穫 14 日前まで	3 回以内		3 回以内		
びわ	灰色かび病	2000 倍	200～700L/10a	収穫 14 日前まで	3 回以内		3 回以内		
くり	実炭そ病	2000～3000 倍	200～700L/10a	裂果前但し、収穫 14 日前まで	4 回以内		4 回以内		
なし	輪紋病	2000～3000 倍	200～700L/10a	収穫前日時まで	4 回以内		6 回以内(塗布は 2 回以内、散布は 4 回以内)		
	胴枯病	2000～3000 倍	200～700L/10a						
	黒星病	2000～3000 倍	200～700L/10a						
	うどんこ病	2000～3000 倍	200～700L/10a						
	心腐れ症(胴枯病菌)	2000～3000 倍	200～700L/10a						
かき	枝枯病	20 倍	—	3 月～6 月	2 回以内	マシン油乳剤で希釈し塗布			
	胴枯病	20 倍	—	3 月～6 月	2 回以内	マシン油乳剤で希釈し塗布			
かき	落葉病、うどんこ病、炭そ病、すす点病	2000～3000 倍	200～700L/10a	収穫前日まで	6 回以内	散布	6 回以内		
もも	擬似炭そ病	2000 倍	—	—	—	—	—		
もも	灰星病、黒星病、ホモフス腐敗病、うどんこ病	2000～3000 倍	200～700L/10a	収穫前日まで	3 回以内	散布	3 回以内		
おうとう	灰星病、褐色せん孔病	3000 倍	200～700L/10a	収穫 3 日前まで	2 回以内	散布	2 回以内		
ネクタリン	灰星病、黒星病、ホモフス腐敗病	2000～3000 倍	—	収穫 3 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内		
いちじく	株枯病	1000 倍	—	収穫 3 日前まで	5 回以内	株元灌注	5 回以内		
キウイフルーツ	果実軟腐病 すす斑病	2000 倍	1～10L/樹	収穫 7 日前まで	5 回以内	散布	5 回以内		
ブルーベリー	斑点病 バルデンシア葉枯病	3000 倍	200～700L/10a	収穫 7 日前まで	1 回	散布	1 回		
ぶどう	褐斑病 うどんこ病 灰色かび病 晩腐病	2000～3000 倍	200～700L/10a	収穫45日前まで	3 回以内	散布	4 回以内(休眠期処理は 1 回以内、散布は 3 回以内)		
	黒とう病	2000 倍							
	黒とう病	200～500 倍							
	つる割病	200～500 倍		—	—			—	—
	枝膨病	200 倍		—	—			—	—
	晩腐病	200～500 倍		—	—			—	—
	芽枯病	2000 倍		—	—			—	—
みかん	そうか病 灰色かび病	2000～3000 倍	200～700L/10a	収穫前日まで	4 回以内	散布	4 回以内		
	貯蔵病害(青かび病、緑かび病、軸腐病、炭そ病、黒斑病)	4000～6000 倍	200～700L/10a	収穫前日まで	2 回以内	散布	2 回以内		
りんご	黒星病 黒点病 褐斑病 うどんこ病 腐らん病 すす点病 すす斑病 モニリア病	2000～3000 倍 2000 倍	200～700L/10a	収穫前日まで	4 回以内	散布	4 回以内		
りんご(苗木)	白紋羽病	1000 倍	—	植付直前	—	10～30 分間根部浸漬	—		
茶	炭そ病	2000～3000 倍	200～400L/10a	摘採 14 日前まで	1 回	散布	1 回		
	白星病								
	輪紋病								
	褐色円星病								
白紋羽病	1000～2000 倍	—	—	—	—	苗木根部 24 時間浸漬			
西洋芝(ベントグラス)	葉腐病(ブラウンパッチ)	2000～3000 倍	2L/m ²	発病初期	6 回以内	1 m ² 当り 2L 散布	6 回以内		
こんにやく	乾腐病	50～100 倍	—	植付前	1 回	種いもの芽基部に散布	1 回		
麦類	雪腐病	2000～3000 倍	60～150L/10a	根雪前	—	散布	—		
桑	胴枯病	1000 倍	100～300L/10a	摘採 9 日前まで	2 回以内	散布	2 回以内		
	輪紋病	2000 倍	—	—	—	—	—		